

「令和8年熊本地震」を他人事にしない

令和8年8月31日

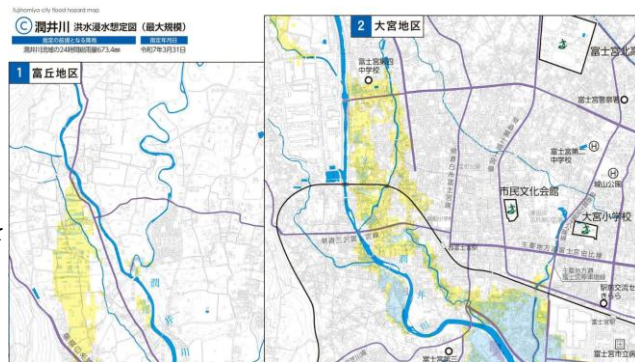
2学期スタートにあたって、各地の自然災害を感じておきたい

令和8(2026)年7月28日熊本県の宇城市、熊本県の八代郡氷川町で最大震度7を観測する地震が発生した(「**令和8年熊本地震**」)。また、8月13日から14日にかけて千葉県中心に関東地方に集中豪雨があり、千葉県で河川の氾濫、冠水する道路など都市型の洪水被害があった(「令和8年8月千葉豪雨」)。その後も石川県で27日に、福井県で29日に、大雨による河川の氾濫が相次いでいる。皆さんの中に、直接被害を受けられた関係者がおられたら、心からお悔やみ申し上げたい。特に、熊本地震に関しては、10年前の同規模の地震による復興の途中であったらうから、言葉を失う。平成28(2016)年の熊本地震について、熊本地震震災ミュージアム「記憶の回廊」というホームページが開設されているが、そのコンセプト「地震を乗り越え、地震と共に生きる」「2千年先の人々へ、この経験を伝える」に、胸が苦しくなる。今は、被害を受けられた皆さんの1日も早い安心できる日が来ることをお祈りしたい。「**記憶の回廊**」<https://kumamotojishin-museum.com>

私は、このような震災や自然災害が発生するたびに、思いは馳せるのはもちろんであるが、その地をできる限り訪れることにしている。(ボランティアなどではないので、申し訳ない気持ちもあるが...)神戸、東北、中越、石川...震災に関する展示等を見ると、人の強さ、コミュニティの大切さを感じることができる。

どんな土地にも、その土地に人が住み、私たちと同じように悩みながら、楽しみながら、一生懸命生活している。それを感じるだけでも意味があると思うし、自分を見返し、**想像力を持って生活するきっかけ**となると思う。

さらに、右図は、富士宮市の公表している洪水浸水に関するハザードマップの一部である。こういう機会に興味を少し持ってほしい。9月はじめには、防災訓練等も予定している。**他人事にしない**というのは、**自分の身を守ることに繋がる学びをしておくことも入っている**と私は思う。



図書館って本当に魅力的、新たな図書館スペースの構築へ

以前の校長通信にも書いたが、私は、図書館という空間が好きである。仕事やプライベートで訪れる場所で、機会があれば図書館に立ち寄りたと思っている。図書館は、学びの場や、情報の宝庫であるとともに、世代を超えて、人が集まる磁場となりうることから、居場所として、どのような空間デザインをするのか、その地域社会の個性が発揮される場所になっているからである。この夏、二つの図書館と出会うことができた。いずれも仕事で訪れた場所であるが、左写真3枚は、**福岡県築上町の図書館である**。築上町は、南側を大分県に隣接する、古来は「豊の国(豊前、豊後)」であり稲作中心の農村地区である(築上町 HP)。見どころは「**あそべるほんだな**」。続いて、右写真2枚は、**静岡県御殿場市に7月19日に開館した「ほんてらす」である**。この図書館は、御殿場という風土と共にあった御殿場の伝統的な古民家が持つ4つの特徴を取り入れている。



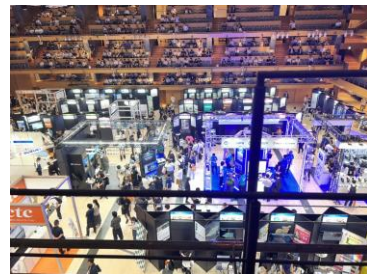
4つとは、「シセキ」「四方屋根」「箱棟」「コマ」である。ちなみに、コマは回す、あのコマではない。古民家の「居間」である。ぜひ1度訪れてみていただきたい。本校も工夫できるかな笑。



あなたの夏休みの「学び」は？ 見つけた教科の見方・考え方は？

生徒の皆さんに夏休み、教科の見方・考え方に触れてほしいと通信にしたので、私の夏休みの「学び」について触れておく。7月23日から25日の3日間東静岡駅前のグランシップにて、TECH BEAT 静岡2026が行われた。このイベントは、スタートアップ企業のマッチングと、産官学のコラボ、様々な業界のトップランナーのトークセッションと盛りだくさんであった。県内中心に、こんなにもスタートアップ企業があるのかと驚き、ここに集まる人たちは、キラキラし、ワクワクする感覚を会場全体の雰囲気とともに醸し出していた。

8月21日、大分県別府市で行われた全国PTA研究大会。PTA代表として、富永さんと参加し、元野球選手の内川聖一氏の講話を聞いた。富永さんと一致したのは、結果を残すスポーツ選手が共通して持っているキャラクターは、「誠実」（又は素直）であること。周囲の人、物、環境に対して心が開かれている。感謝する。



TECH BEAT2026

大変感動した本にも出会った。『希望のつくり方』（著玄田有史 岩波新書）、新書を読んで、何度か泣けたのは、これが初めてあったかもしれない。いくつも紹介したいことはあるが、勉強する意味。玄田氏は、希望について語りながら、「勉強っていうのは、いろいろなことが、わかるようになるっていうこともあるけど、本当をいえば、わからないことだらけだね。でも勉強っていうのは、わからないということに慣れる練習をしているんだ」という。希望学から学んだのは、「わからない」ことから逃げないこと。

そして、これら「学び」を総合する講話を8月17日文科省教科調査官の加藤智氏から聞くことができた。「will」「can」「need」である。これは全ての物事に通ずる。加藤氏は、探究における「課題の質」について、need、「求められていること」、can「できること」、will「やりたいこと」による分析を試みることを示した。これは校長として、大変腑に落ちて、これから仕事をする上で、大切な補助線の引き方を教えていただいた。「人口減少の進む時代の高校の在り方をどうするか」という問いに対してである。学びが多い夏休みであり、明日からの2学期、どう表現するか、ワクワクしている。



静岡県立大学主催 “富士宮・酒蔵サイエンススクール” に参加！

8月21日、25日、28日、静岡県立大学主催で、民間企業（呉竹荘）、市役所企画戦略課と富士宮の高校が連携して、富士宮市の地域資源「酒蔵」をテーマに、フィールドワークと高校生の考える新商品アイデア出し会議が実施された。無料にするには、もったいない充実ぶり、「発酵×科学×地域資源×起業精神」と産官学がそれぞれのリソース（人、ものなど）を出し合った。初日、富士宮北高内で静岡県立大学教授による「発酵とは何か」を学んだ（参加者12人）。2日目、市内酒蔵バスツアー。4つの酒蔵を巡り、その違いを目の当たりにした「景観」「歴史」「社会との関わり」等、ここでも大学教授が「食品」「観光」の視点で補助していただいた（参加者11人）。そして最終日、新商品を並べる酒蔵アンテナショップのある富士宮市商店街を散策して、アイデアを練った。富士宮市街地を流れる「水」にその豊かさを感じた（参加者6人）。このような大学との連携した企画を定期的開催できる高校でありたい。地域とともにある高校をめざすために！



生徒たちにつけたい力④ 宮北 base 「知性を磨く力」

R7 年度先生から見た、宮北生に求めたい人物像を話し合い、そこから集約した生徒たちにつけたい力連載の4回目。変化の激しい社会で、自力で答えを導き出すための土台となる力である。ここでは、生徒たちが深く学ぶ姿や、学校での勉強や進路実現にむけて自ら動く姿、積極的に学校外に飛び出して視野を広げて社会のことを知ろうとする姿などをイメージしてきた。そのためには、探究心、情報分析する力、論理的思考、課題を設定する力などが必要だろう。夏休みの、教科の見方考え方を探してみようというのは、こういう知性を磨く上で、大切であると思う。難しいことではなく、「なぜ」という気持ちを2学期以降も持ち続けてほしい。

